

### 第3回岐阜県慢性腎臓病対策推進協議会 議事概要

- 1 日 時 令和4年3月17日(木) 14時～15時  
 2 場 所 オンライン  
 3 参加者 8名

	所属	氏名	役割	備考
1	岐阜県総合医療センター	村田 一知朗	日本腎臓病協会慢性腎臓病対策部会岐阜代表	Web
2	岐阜県医師会	平野 良尚	岐阜県医師会	欠席
3	岐阜県医師会	西野 好則	岐阜県医師会	Web
4	岐阜大学医学部附属病院	吉田 学郎	腎臓専門医	Web
5	岐阜市民病院	高橋 浩毅	腎臓専門医	欠席
6	大垣市民病院 岐阜県糖尿病対策推進協議会	傍島 裕司	腎臓専門医 糖尿病専門医	Web
7	岐阜大学大学院 岐阜県糖尿病対策推進協議会	矢部 大介	糖尿病専門医	Web
8	岐阜県薬剤師会	井深 宏和	薬剤師代表	Web
9	中濃厚生病院	廣瀬 恭子	病院看護師代表	Web
10	全国健康保険協会岐阜支部	作倉 かおり	医療保険者代表	欠席
11	下呂市	福井 郁子	市町村保健師代表	欠席
12	本巣市	藤井 伸会	市町村管理栄養士代表	欠席
13	恵那保健所	伊佐地るり子	保健所代表	Web

#### 4 事務局

1	岐阜県健康福祉部保健医療課	赤尾 典子
2	保健医療課健康推進室	牧村 潤一
3		小川 麻里子

■挨拶（岐阜県健康福祉部保健医療課長）

■議事

- 1) 報告事項「令和3年度の実施状況について」
- 2) 協議事項「令和4年度の実施について」
  - (1) 普及啓発について
  - (2) 医療提供体制について
  - (3) 人材育成について
  - (4) その他

(1) 令和3年度の取組状況について

- ・当初計画に基づき事業が実施されたことを報告。
- ・2020年の新規透析導入患者数669人へ増加。2028年までに500人以下といった目標達成に向けて、引き続き保健及び医療連携し、普及啓発、医療提供体制、人材育成の3本柱を継続、拡充していく必要がある。

(2) 令和4年度の取組について

①普及啓発について

- ・新型コロナウイルス感染症によるが、対面での県民公開講座を企画していく。
- ・特定の期間に限定せず、通年的に公民館などの小単位を対象に啓発活動についても検討していく。
- ・腎臓病の薬品を取扱う企業から、腎臓対策への支援に関する申し出も多い。企業との連携等も視野に入れて、サステナビリティを担保しつつ、より大々的な活動展開を検討していく。

②医療提供体制について

○岐阜県CKD医療連携ワーキンググループを中心に展開していく。

- ・作成したツールやマニュアルの、今後の利活用を検討していく。
- ・モデル地区を選定し、行政と医師会・専門医との連携や、薬剤師会との連携、病診連携などいくつかのパターンで取組みを展開する。
- ・各地区の取り組みを県民公開講座で取り上げ、県民にも興味を持っていただく機会を設定する。
- ・糖尿病対策推進協議会が企画するセミナーに腎臓病担当理事も参し、連携を深めていく。

○メディカルスタッフへの啓発

- ・腎臓シールを通じた薬剤師と医師の連携の促進を期待する。
- ・薬剤師等へは、シールの確認だけでなく、検査値を見ることを併せて周知していく。
- ・医師会員へは、医薬連携について説明の機会を設けられるとよい。
- ・協議会委員は、院内外での周知徹底を図り、取組み軌道化させる役割を担っていく。
- ・ツールの理解促進に向け、CKD診療医やスタッフ向けリーフレットや、県民向けリーフレットを作成する。

③人材育成について

- ・腎臓病対策について体系的に学ぶ機会を設定していく。

④その他

○岐阜県糖尿病対策推進協議会との連携について

- ・2つの協議会を合体させることは難しいが、糖尿病対策推進協議会へ委員長が参加し、共有したい点や相互で突合させたい部分などの連携を進め、対策間の意見の行き来をスムーズにしていく。
- ・糖尿病対策推進協議会とCKD対策推進協議会それぞれのミッションが異なるため、オーバーラップする部分とそうでない部分を1つ1つ整理した対応が必要である。

○データ活用について

- ・市町村が保有するKDBシステムを活用し、課題分析から対象者の抽出、保健指導の実施、評価までを一連の流れとして実施する。その中で、好事例を把握し、取組みの進まない市町村への支援に活用していく。
- ・東海国立大学機構では医療健康データ統合研究教育拠点活動の一つとして、CKD・DKD対策の着実な実施に向けたデータ分析を掲げており、今後は県や市町村との連携を検討していきたい。